

令和6年度 第1回 垂水市総合教育会議

1. 日 時 : 令和 7 年 2 月 13 日 (木) 10:00 ~ 11:20
2. 場 所 : 垂水市市民館 2 階 第 1 研修室
 1. 開 会
 2. 市長あいさつ
 3. 協 議
3. 会 次 第 :
 - (1) 垂水市教育大綱の決定について
 - (2) 意見交換
 - (3) その他
 4. 閉 会
4. 出 席 者 : ・尾脇市長 ・坂元教育長
・葛迫教育委員 ・福里教育委員 ・田之上教育委員 ・明石教育委員
5. 教育委員会
同 席 者 : ・草野教育総務 ・川崎学校教育 ・大山社会教育 ・村山補佐兼庶務
課長 課長 課長 係長
6. 傍 聴 者 : なし
7. 事 務 局 : ・堀留企画政策 ・二川総括監 ・羽生補佐兼政策 ・迫田政策推進係
課長 推進係長 主事

企画政策課 … それでは皆さんおはようございます。

堀留課長 本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。
企画政策課長の堀留です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4
第6項に基づき、原則公開となっております。本日の協議については、
非公開事由に該当する協議事項はないと思われますので、会議を公開す
ることといたします。

また、会議録作成につきましては、同条第7項及び垂水市会議録の作
成に関する規定に基づき、全文記録とし、後日、ホームページ上に公開
いたしますので御了承ください。

それでは、ただいまから令和6年度第1回垂水市総合教育会議を開会
します。

初めに、尾脇市長から御挨拶をお願いいたします。

尾脇市長 … 皆さんおはようございます。垂水市長の尾脇でございます。

教育委員の皆様方におかれましては、日頃から本市の教育行政の活性
化のために、教育関係の諸行事への参加や、学校教育活動への助言等
をはじめ、重点施策の具体策についてご審議いただいておりますことに、
あらためて感謝を申し上げます。

さて、昨今の社会情勢は急速に変化しており、それに伴って教育の在り方も大きな転換期を迎えております。デジタル化の進展や、A I の導入により、今後ますます教育現場も変化し、また、環境問題やジェンダー平等、社会の多様性といった課題に対する教育は、子どもたちに未来への責任を自覚させる上で不可欠と言えます。

そのためには、私たち教育行政も従来の枠組みにとらわれず、新たな視点で変革を推進しなければならないと考えております。

そのようなことから、本日の総合教育会議では、今後5年間の教育行政推進の柱となる、「垂水市教育大綱」の決定について、ご審議いただきたいと存じます。

事務局の説明の後、意見交換を行わせていただきたいと思いますので、教育委員の皆様より、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願いいたします。

結びに、本市の教育がさらに充実し、未来を担う子供達が、日本や世界で活躍するよう祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願い申し上げます。

企画政策課 …
堀留課長

ありがとうございました。

それでは、協議に入りたいと思います。

ここからの進行は、尾脇市長にお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

尾脇市長 …

それでは、まず、協議事項（1）垂水市教育大綱の決定について、ご審議いただきたいと存じます。

本市の教育大綱については、令和2年度の総合教育会議にて、本市教育委員会が策定する「教育振興基本計画」を大綱と位置付けることとして決定し、次期教育大綱についても、同じように位置付けたいと考えており、このことは、前回、令和5年度第1回総合教育会議でもご説明したとおりでございます。

それでは、垂水市教育大綱（案）の概要について、教育総務課より説明をお願いします。

教育総務課 …
草野課長

それでは、垂水市教育大綱案についてご説明申し上げます。

資料の表紙の裏面をお開けください。「はじめに」のところをご覧ください。

3段目の「本市では、…」からのところですが、先ほど市長からも説明がありましたとおり、本市の教育大綱については、令和2年度総合教育会議において、「市長が定める「教育大綱」は、本市教育委員会が策定する教育振興基本計画とする」と決定されておりますことから、昨日開催されました第11回教育委員会定例会において、議決されました「第4期 垂水市教育振興基本計画」のうち、「基本目標」及び基本的な方針として、「本市の教育の取組における視点」、「本市の教育施策の方向性」についてを、新たな「垂水市教育大綱」として決定しようとする

るものでございます。なお、この教育大綱の対象期間は、令和7年度から令和11年度まででございます。

それでは、教育大綱案の内容についてご説明申し上げます。2枚目をご覧ください。

まず、今回の基本目標を「夢や希望を実現し ともに未来を創る垂水の人づくり 誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」と定め、基本的な方針として、本市の教育の取組における視点を5項目挙げさせていただきました。

具体的には、記載してありますとおり、1つ目に「時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重」を、2つ目に「社会の変化を乗り越え、未来の社会の創り手となる資質・能力の育成」を、3つ目に「生涯を通じて一人ひとりが幸せや生きがいを感じることでできる教育環境づくり」を、4つ目に「学校・家庭・地域・企業等の積極的な連携・協働」を5つ目に「郷土の教育的な伝統や風土の活用と未来への継承」でございいます。

また、本市の教育施策の方向性として、1つ目に、「お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」2つ目に、「未来の社会の創り手となる資質・能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進」3つ目に、「信頼され、地域と共にある学校づくりの推進」4つ目に、「地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進」、5つ目に、「生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興」の5項目を示させていただきました。

具体的な内容については、次ページ以降記載しておりますので、後程お目通してください。

次に、現在の教育大綱との変更点を申し上げます。

別紙、新旧対照表を御覧ください。

はじめに、基本目標でございます。

現在の教育大綱では、「夢や希望を実現し 次世代を担う垂水の人づくり～ あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり～」と定め、令和2年度から5年間、様々な施策に取り組んできたところですが、今回新たに定めるに当たり、本市の教育振興基本計画の上位計画である県・国の「教育振興基本計画」や、昨年12月に議会の議決をいただきました「第6次垂水市総合計画」との整合性を図りながら、新たな基本目標を「夢や希望を実現し ともに未来を創る垂水の人づくり～ 誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会を目指して～」としたところでございます。

また、1の「本市の教育の取組における視点」では、先ほど申し上げました本市教育振興基本計画の上位計画である国の計画の基本方針に新たに「持続可能な社会の創り手の育成」や日本社会に根差したウェルビーイングの向上」などが加えられ、また、鹿児島県の計画で新たに加えられた、令和22年以降の社会を見据えた教育の姿として、「未来の

社会の創り手となる人間」や「生涯を通じて幸せや生きがいを感じながら意欲的に自己実現を目指す人間」の育成などを参酌し、2つ目にある「社会の変化に対応し、夢や希望を実現する能力の育成」のところを、「社会の変化を乗り越え、未来の社会の創り手となる資質・能力の育成」と改め、新たに「生涯を通じて一人ひとりが幸せや生きがいを感じることでできる教育環境づくり」と「教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進」の2つを加えたところでございます。

次に、2の「本市の教育施策の方向性」では、2つ目について、国の計画の「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の作り手の育成」、県の「未来の社会の作り手となる人間育成」を参酌し、これまでの「未来を切り拓く」という言葉に対し、「未来の社会の創り手」と改めたところでございます。

以上で説明を終わりますが、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

尾脇市長 …… ただいま、教育総務課より説明がございました。

ただいまの説明につきまして、ご意見のある方はいらっしゃいませんか。

1人ずついただきますので、せっかくだすから、さっきもありましたとおり、今後5年間どうしていくのっていう話でございますので、ご意見、それぞれあると思いますので。

それでは葛迫先生からよろしくお願いいたします。

葛迫教育委員 …… 垂水市内の小学校、中学校、小規模校の学校が多く、水之上小学校、垂水小学校、中央中学校を除く、すべての学校の複式の学級。そこで、様々な学校を訪問しているんですけども、その中で感じたこと、また小規模校のメリットであったり、デメリットであったり、そのことについての、感じたことをちょっと述べさせていただきたいと思います。

いつも思っているんですけども、非常に強い思いなんですけども、小規模校であったり、大きな学校、関係なく、垂水市に限った案件ではないと思うんですけども、児童生徒の不登校という案件がやっぱり気になるなっていると思います。

大きな学校ではこの友達、人間関係の問題であったりとか、先生と生徒の問題であったり、小規模校でいうと、学校内での、友人関係とか、生徒と先生との、この距離感が非常に近くに感じている、そういうふう実感していたんですけども、そんなこともないなあと。ちょっと大きな壁が発生したような、そう感じることも学校訪問ではありました。

不登校は、児童にとって生徒にとって非常に将来を左右するものと、思われます。

学校で学ぶ。そして学校で遊ぶこと。自分で考えて自分の意見を発表する。1人だけ取り残された空間には、そういうことが全くできないんじゃないかなと。

1対1であったり、1対2であったり、1対3、1対4と、自分とそ

の仲間、仲間たちとの関係、ここを築いていくことがとても大事なのではないかなと思っております。

そして、不登校をなくしていくことがとても大切だと思うんですが、現在は不登校の子供たちに、オンラインで授業し、指導していると考えられるんですけども、非常にいいことだなと思います。様々な授業内容で、子供たちを救いながら、人と人との関係を築けないもんかなと。

子供たち届けていくことが一番大事なんじゃないかなと感じます。

この課題を垂水市全体で考えていかなければいけないのかな。学校だけに押し付けるのではなくて、地域であったり、家庭であったり、そして、この地域の人々すべてに関わりあった社会、そういう社会を作り上げて、児童であったり、子供たちであったり大事に育てて欲しいなと感じております。地域で学校を育てることも大事です。子供たちを育てることも大事。なかなかその、あまり希薄な感じにやっていかない、そんな地域づくり、学校づくりを目指したらなあとと思うところです。

そんな不登校のいない垂水市であって欲しいと、まちづくりにして欲しいと考えているところです。以上です。

尾脇市長 …… ありがとうございます。本当に貴重な御意見だと思います。
今日は大きく2つですね。

まず1点目は教育大綱の方針を決定に関することと、また、今後の学校のあり方についても御意見いただく場もこの後あるようですから、また改めてご意見伺いたいと思いますけれども、1点目の教育大綱の決定に関することについて、福里委員、何かございますか。

福里教育委員 …… 私は幼稚園で働いているんですが、やっぱり子供たちの体験不足がすごく感じられるところがあって、どちらかというと保護者の方がお勉強だけに力を入れてしまって、何ていうかな。やったことがない体験活動がおろそかになっているところがあるのかなというふうに感じますんで、ここの、体験を通して心の教育というふうに書いてあるんですが、やっぱり、何かを自分で体験することによって、子供たちのその達成感だったり、自己肯定感だったり、あとそういう、これやったことあるとか、そういうのがすごく子供にとっては、宝になるんじゃないかなというふうに私は思って、それで保育をしてるんですが、今の子供たちって言ったらいけないんですが、やる前にやったことがないことはやらないという子が多いです。

やっぱりこうやったことないので、いやあできないからやらないっていうのじゃなくて、やっぱりやることによっていろんなチャンスが生まれてくると思うので、そういう体験活動を多く子供たちにはして欲しいなというふうに感じます。以上です。

尾脇市長 …… ありがとうございます。
それでは田之上委員お願いします。

田之上教育委員 …… この中で、この地域で子供を育てましょう、生涯を通じて夢を持ち続けましょうというのはずっと言われているわけですけども、子供が少

なくなる中で、地域の文化や伝統の継承というのがすごく難しいような気がしていて、そういう実態があるのかなと思っています。

子供たちにとってすごくいい経験になるし、ふるさとを大切にする思いというのを育んでいくことが必要だっていうのはすごくよくわかるんですけど、小規模校に関してはそれが、ちょっと子供たちや保護者の負担になるのかなと。そういうところをまちとか、地域で支えていくのかな、いけばいいのかなっていうのをこれから検討していかなきゃいけないのかなあと思っています。

変わらずにやっぱりいて欲しいものと、変わらざるをえない部分があるところは、やっぱりこう変えていくことも、子供たちの適正な環境を作っていくために、そこら辺を学校とまちが一緒にやっていって、考えて欲しいなと思っています。

そういう教育の取り組みの中に入れてほしいです。

尾脇市長
明石教育
委員

… ありがとうございます。明石委員お願いします。
… 私が垂水中央中にいるときやら教育委員会にいるときもそうでしたけど、郷土学習、そこについては本当に、市長をはじめ、市当局の皆様からご理解いただいて、中学校でも学年ごとに、カンパチ餌やり体験をさせていただいたり、史跡めぐりをしたり、或いは、猿ヶ城で体験活動をさせていただいたりとか、こういうようなことをしていただきました。本当に子供たちはふるさと垂水という絆で結ばれて、本当に良い思い出をつくっていきながら成長していったなあと思ってるんですが、今後もこのふるさと垂水郷土教育推進というところをうたっていただいて、大変ありがたいなと思うんです。

私ちょっと学校教育課長にお尋ねできればと思うんですけども、ふるさと垂水の学習の推進と、このGIGAスクールの取り組みを、どのように絡めていくのかなと、活動あって学習なしとならぬために、どんなふうに見据えて取り組もうとされているのかちょっとお伺いできればとおもいます。

学校教育課 …
川崎課長

… 私たちが考えているのが、デジタルの力でリアルな学びを支えるということになります。子供たちの義務教育段階における課題のリアルな体験活動ではないかなと。そこはやっぱり、ふるさとを大事にしたり、それからこのまちっていいなって思ったりですね、このまちに将来貢献しようかなという、そういう子供たちに育っていただきたいと思います。

ただし、ただの体験だけではなくて、体験を通した学びをしていかないといけない。探究的な学びで、ただ経験するだけでなく、何で漁業がこのまちで盛んなんだ、そして、その中で漁業をやっている人たちがどんな思いでやっているのかっていうことは、その体験だけではなくて、その前のリサーチとか、その後の交流で実際に聞いたり、自分で調べたりして、自分なりの考えというのを構築する。そしてその構築したことをきちんとまとめていく作業が必要なのかなと思います。

そのために、本市が今取り組んでいるGIGAスクール構想を活用し

ていく。そして、まとめたものを、やはり発信して、そしてそのあと人に見てもらって、評価をもらってこそ、初めて自分のものになるのかなって、そう思っております。

そういう活動をすることで、ふるさと垂水が、体験的なもので終わるのではなくて、そうした学びや、それからふるさとを大事にする意識に繋がっていくのかなというふうに私は考えておりまして、そのことが、デジタルの力でリアルな学びを支えるというふうに考えております。

明石教育
委員

… たえば子供たちが大人になって垂水を離れても、何かの形で貢献してくれるような、そういった人を育てなければよろしいかなと思うので、ぜひ教育環境の充実をお願いできればと思います。

尾脇市長

… ありがとうございます。

それでは教育大綱の件につきまして、私の方で少し考え方を述べさせていただきます、教育長の方にこのあとお話しさせていただきたいと思います。

まちづくりの中で、子育て支援、教育の充実も特に力を入れるということで、皆様のご協力で、いろんな意味で成果が上がってきているのではないかなあというふうに感じています。

少子高齢化社会の中で、子育て支援に関しましては、例えば中学生までの学校給食の無料化、今朝の新聞にも継続で載っていましたけれども、年間 5,000 万弱ぐらいかかるんですけれども、コロナで家庭の事情で、給食で朝食分を補っていきなさいいけないというご家庭もあると聞いております。やっぱり育ち盛りの垂水の宝である子供たちがしっかりと食という点で、サポートできるようにということで、無料化をさせていただいて、同時に医療費の高校生までの無料化っていうのも、昨年スタートいたしました。

本来、県の方でやるということでもありますけれども、県知事選の争点にもありましたが、塩田知事の考えは国策としてやるべきだと。私もそう思いますが、少しそれを具現化するには時間がかかるということで、垂水市内からでもいいので、約 30 の医療機関がありますから、そっからスタートしようということで、ご理解いただいて、今年度実施して、来年度からは、全県的にやろうという方向で今やっております。

結果としてどういう現象が起こったかっていうと、子供の医療費が 120%ぐらい増えました。20%ぐらい増えたっていうことなんですけど、言い方を変えれば、無料になったから行けるようになったっていうことでもあるんですね。我慢していたっていうことがあったんですけども、それが、窓口負担がなくなることによって可能になったことはよかったなあというふうに思っています。

一方で教育に関しては、コロナという 1 つの大きな時代の流れがあって、このピンチをチャンスに変えていきながら、ずっとうちは進みました。

それまでは光回線の整備が進んでいませんでしたけれども、森山先生にもご相談して、この交付金を活用して、その整備が進むと、G I G Aスクール構想教育長中心に頑張ってもらっていて、この間の新聞等でも報道していただきましたけれども、I C Tアワードにおいても、1718、全国である中で、5 番目の賞を頂いてということで2 回目でした。地域や、そういう地方の豊かさとか、そういったものを享受しながら、都会に負けない環境っていうのが整いつつあるというふうに思っています。

子供の数は減っていきませんが、そういった意味では、子育て支援教育の環境は充実して、県内でも全国でもトップクラスじゃないかなというふうに思っています。

その上で、今回、この次の5 年間についても、教育大綱の部分がよく練られている、私が教育委員会の皆さんにお願いをしているのは、なかなかこういう世の中、競争社会なので、予定通りいかないです。

だから、問題を発見して解決する、七転び八起き的な環境を子供たちの教育で育んでもらって、そういうふうにして、それができたけれども、途中で精神的にまいってしまったりとか、いろんなケースがありますから、生きていく上で高い目標を掲げれば掲げるほど挫折をします。なんだけれども、そこをしっかりと乗り越えて、未来をつくっていく。それは経験としてピンチをチャンスにみたいなところは重要なのだろうと。これからの時代は特に、デジタルで、もともと人がやってたところはもう機械がありますから、人って何を見てももらえるかっていうと、そういう問題を発見して解決をするっていうようなところに重きを。知恵といいますかね、そういうようなところの人材育成っていうのは、小さいときからの体験であったり、まず子供がハイハイしなさいと。そういう対応の中でのある器官が発達するんだとか、そういう遊ばなきゃいけないっていうのが必要であるようでございますし、それも含めて、皆さん専門家ですから、その中での考え方、視点というのに関しては対応できているかなと思います。

私の方で、これが適切かどうかわかんないんですけど1 つ問題、問題提起というか気になっていることは、食育の部分っていうところでこれはどっかに入っているっていうことなんですか。そうではないのか、知・徳・体みたいのがあったりして、それを思ったのはですね、昨日は農水省の九州の幹部の皆さんがお越しいただいて、農業政策に関して説明がありました。よくわかりますと。ただ、そもそもその日本の農業のあり方っていうのは、食っていうのはそれでいいのかっていうのを、さっき少し感じてですね。

例えば、米からパンになったときに、アレルギー問題とかいろいろ出てきていますよね。

例えば、乳製品がいいとか悪いとか、油がいいとか悪いとか、砂糖がいいとか悪いとかいろいろあります。

いろいろな人たちのご意見を聞くと、欧米人がパンを食べるってのは身体に合ってる。ただ、日本人が食べたときに、1割から2割の人はそうでもないんだけど、8割がやっぱり何らかのアレルギー反応を起こして、それが、それぞれの枠があって、これ超えていくと、発動したりするみたいなのところがあって、今は何ともないんだけど、それが将来にわたってとか、糖尿病だとか、花粉症もアレルギー反応ですから、その辺のところは非常にあって、体の状態が心を作ったりしていくっていうことで、非常にその教育の周りの環境としてはよくできてると思うんですね。その子供たちの体を作る食育がもっと力を入れるべきなのかなあと。垂水の学校給食は素晴らしいと思います。他に比べて、非常に食材、美味しいということでもありますので、それはそれで他よりも優れているんだけど、もうちょっとここに力を入れ、子供たちの能力を最大限に生かして、夢がかなうように頑張ってもらいたいと思います。一番肝心かなめの食の部分っていうのを、もうちょっと力を、今でも他よりいいですよ。だからその部分を、親ができる事もあるし、そういうことを市の中で、垂水市の構図として例えば、週1回ご飯なのを週3回ぐらいできんだろうか、そういうものを勉強しながらですね、また見直しとかもあるかもしれませんので、重要な食べるっていうものっていう部分も含めて、また少し検討していただければありがたいなと思いますが、全体的にこの件に関して、教育長どうでしょうか。

坂元教育長 … はい。ありがとうございます。

まず、市長が話をされた、食に関する指導の面ですね。これは非常に大事だというふうに我々もとらえておりまして、坂中栄養教諭を中心にですね、食育の授業をすべての学校で実施しております。

そしてまたその中で地元食材の素晴らしさ、そしてまたバランスの取れた食事のありよう、或いはアレルギーに関するもの。多方面からですね、食の重要性をこういうふうに伝える、或いは考え感謝する。

そういった授業を、日ごろから実践しています。そういう意味では割と、本市ではそういう食育に対する意識を持っているというふうに思っているところです。

ただ、そのことがしっかりとまた保護者に伝わって、そして、保護者がまた、家庭の中の料理がどうあるべきかみたいなのところまではまだ十分にいつてはないですけども、でもありがたいことに、栄養教諭を招いて、家庭教育学習でですね、食育について学ぶという学校もでてきておりますので、そういうところはまたですね、PTAの中にもこの食育の大切さを広げていくという取り組みは、私も今後、重要になっていくと思っていますし、そのことが健康な体と心を作っていくんだというところをですね、リンクしてやるっていう大事なことで。資料にもありますとおりですね、子供も保護者も感じながら、進めていきたいなと思っております。

ちなみにInstagramを使って、毎日の給食がアップされていることも皆様ご存じですよ。現在、市長の方からもオーダーもあって、少し写真が暗いということで、光を当てて、明るく見えるような、そういった工夫もされているようですね。非常にまた見栄えのいい感じでですね、伝わっていると。

そしてまた、食育だよりも定期的に発行をされておりますので、そういったものと合わせて見ていくとですね、非常に本市の給食の取組、或いは工夫、そういったものが、ぜひ、保護者の方々に感じ取っていただけるんじゃないかな。そこから子供への、親からの指導というのはあってもいいかなという気がします。

今後ですね、特に子供の体と心を育てる食育指導の方とセンターも協力しながら、そしてまた、確保して学校と連携しながら進めてまいります。

では、教育大綱につきまして、少し私の思いみたいなものをお話したいと思います。

基本的にはですね、この目標だとか、方針すごくできていると思っていてですね、果たしてですね、これが、いわゆるどこまで、大きい施策として、きちっと子供を育てるということに繋がっていくのかなというのを、いつも私は感じながら、こういう施策とか大綱とかみる度に思うんですね。

ですので、やはりこのことについてまず、第一に考えなきゃいけないのは、しっかりとまとまっているということですね。そしてそれを管理職と学校職員がしっかりと把握をして、職員は保護者にしっかりと伝えていくという過程を経て、こういった、大綱、或いは基本的なものは浸透していくのかなと思います。

ですので、それはやはり、繰り返し重点的にお話をされているような話があると思うんですけども、そういうものを通してですね、やはり計画が、どうしっかり根づいて子供のために機能していくかということをですね、今後また、しっかりと考えていきたいなと思います。

さて、話し合いの中でも色々出てまいりました。非常に重たいものもあったなというふうなことを思うことでございました。

例えば、冒頭おっしゃった、葛迫先生の話の中身、これが非常に重たい。不登校の問題がありました。

これはもうまさしく人間関係、これが非常にうまく構築できない。それに起因する、或いは自分自身が学校に行くことに意味を感じない。そういったようなことからですね、まず不登校というのは出てきているわけですけども、今年度から校内支援センター、これを設置しまして、そこに専従の職員を配置し、まずは教室に入る1歩手前ですね、環境でしっかりと子供と向き合ってもらって、そこから教室に通えている子供も確かにいます。

その子供たちはやはり、学級に入りたいわけですね。そして、しっかり友達を作りたいというふうに思っておりますので、その間に入っていくという人がやっぱり大事なのかなと思っております。

このことについては、来年度以降ですね、またこの校内支援センターを拡充していった、そしてそういう不登校の子供たちと関わっていった、或いは未然防止であったりですね、果たしていきいたいなというふうに思います。

つまり人と人との関係性というのを大事にしながらですねやっぱりそこは、不登校をどう防いでいくかというところは大事ななというふうに思っております。

次にですね、福里委員がおっしゃった、体験活動、体験不足の問題ですね、これは親の世代も同様に言えるのかなという気がしております。地域に根差した親の考え方。本来育てるべきところを乳幼児期に、要するにきちっと線を引けるか、良いところと悪いところ、その線をきちっと引ける子供を育てるようなですね、家庭は今あるのかどうなのか、そういうところは非常に大きな課題なのかなと。

ですので、親が学ぶ場を、幼稚園保育園とも連携しながら、そして小学校の早い段階でですね、親がしっかりと身につけてもらって、そして向き合って、まずはやはり心をしっかり育てていくと。その心というのはつらいことをのりこえていく逞しさというのをですね、柔軟にいろんなことに耐えていくという心をですね、ぜひ育ていけるように、家庭教育あるいは学校教育を構築していければというふうに思っております。

田之上委員がおっしゃった、いわゆる経験、そして文化・伝統を継承していく、そういうのが、希薄化していくのでしょうかね、ものすごく機会が少なくなってきました。それはやはり地域だとか、或いはまちでですね、支えとか、そういう時代になってきているかなと思いますし、文化・伝統を継承することの意味というのは、今申し上げた心を育むというところに通じていくわけで、当然ながらですね、郷土愛にも通じます。

そういうところを大切に、ただですね、小規模校の負担というようなところも出ましたので、そのあたりを全体でですね、いわゆる学校、地域、或いは保護者と連携しながら、今一度ですね、考えていきたいなというふうに思っているところでございます。

明石委員から出た、体験活動とGIGAスクールとのリンク、それについては、先ほど、川崎課長からあったようにですね、一連の学びの中で出てくるものの効果、非常に多いと思うんですね。いわゆるその学びの最終的な判断、市長もおっしゃいましたけど知恵を育むというところに繋がってくるというようなことで、それは生き方にも関わると。その子の生き方ですね、これからの生き方、或いは人としての

礎にもかかわっている部分であるというふうに思っておりますので、体験活動も大事です。

そして、できればですね、大人がセットした体験活動ではなくて、これからは子供が自ら選んでいく、或いは子供が自ら作り上げていくような、そういう体験活動もあっていいというふうに思っております。それがまた新たな垂水の魅力発見にも繋がっていくのかなというふうなことを、私は思っているところです。

冒頭のご挨拶の中でもございましたけれども、本市にとりましては、子供は宝ということで、市長も、教育にとにかく力を入れてくれと再三おっしゃいます。これは子供を思う故の愛だなと思うんですけど、これからもですね、保護者の要望をしっかりとらえてですね、学校と行政一体となってですね、この教育環境の在り様も含めてですね、子供たちを大きく大きく育てていくような教育行政をやっていききたいなというふうに思っております。

以上でございます。

尾脇市長

… ありがとうございます。

他に皆さんの方からございますでしょうか。

(「なし」という声あり。)

それでは、協議事項(1)垂水市教育大綱の決定について、垂水市教育振興基本計画を本市の大綱とすることについて、ご異議ございませんでしょうか。

(「なし」という声あり。)

ありがとうございます。

それでは、原案のとおり決定いたしました。

次に協議事項(2)の意見交換に移りたいと存じます。

現在、定例教育委員会等におきまして、今後の「学校の在り方」について、2学期に開催された各小・中学校の学校運営協議会の報告がなされていると伺っております。

このことから、今回、私の方から1つ、意見交換のテーマとしまして、「学校の在り方」について、委員の皆様よりご意見を賜りたいと考えております。

まず、教育委員の皆様からお一人ずつご意見をお伺いして、その後、教育長より総括的なご意見を伺いたいと考えております。それでは質疑をお願いいたします。

教育総務課

… はい、市長。

草野課長

尾脇市長

… はい、どうぞ。

教育総務課

… いま、学校の在り方についてをテーマということですけど、12月議会でも申しましたとおり、学校の在り方については、2学期に、各学校の

学校運営協議会でお話をしていて、3学期の学校運営協議会については今現在、少しずつ始まっているんですが、そこで検討する会の設置の必要性について意見を取りまとめている状況でございます。その学校の意見が集まった後で、検討委員会が立ち上がって、そこで学校の在り方に対して議論が始まると思いますので、本日は教育委員の方々には今年度、学校訪問をされておりますので、実際に小規模校とか複式学級を見て感じたことなどを、ご意見をいただければいいかなと思っていますけど、よろしくお願いします。

尾脇市長 … では、そういうことでございますので、申し訳ありませんが、ぜひよろしくお願いします。

葛迫教育委員 … そうですね。

学校訪問をずっとやってきてるんですけども、学校訪問をして、朝、学校に入っていくときに、子供たちがやっぱりこう一生懸命、学びの場に入る瞬間っていうのは目にするんですけども、子供たちが一生懸命勉強してるなあと思って、幸せな感じで学校に入っていくんですけども、学校に入っていくと、やっぱり子供たちは、一生懸命勉強しようと思ってるんですけどなかなかこう、教育委員や、いろんな方々がこう見てると、やっぱり緊張しちゃうですかね、非常にこう、かわいそうだなというふうなものが一番大きいです。

1回教室の外から見ることもあるんですけど、そうすると子供たちが自然に勉強に入っていくなあ。何かこう、自分たちが、見られるっていうのかな、自分もそうなんですけども、誰かに見られて勉強する、そうじゃなくてやっぱり自分のことを、今いろんな話が出るんですけど、自分で進んで勉強する、そういうところが何かこう見れたらいいなと思うんですけども、教育委員としてこう入っていくと、何か子供たちが緊張しているんで、非常にかわいそうだなと思っているところなんです。

でも、自分たちは見ないといけないし、何かそういう、何ていうかなギャップっていうのかな、矛盾するような感じの話になるんですけども、そういうところを、なくしたら見れないんですけども、そういうところが、そういう学校訪問の中で、何かこう、なかったらいいというか、そういうなんかは、あるとやっぱり子供たちがちょっと、何でもいいんですけども、かわいそうな感じがして、僕たちがやっぱり見ていると、勉強もなかなかこう身に入らないような気がして、それでいいのかなっていうふうに思っているんですけども。どうですかね、皆さんに聞きたいんですけども。

尾脇市長 … いま例えば私も聞いて、私なりの意見を言うと、当然そこに人がいて、緊張しちゃうと。なかなか平常通りいかないということなんですけども、モニターで覗いて、例えば校長室で見るとか、まあ、そういうことも1つの方法としてあるのかなと。そうすると、教育委員の皆

さんも見れるし、子供たちのスタートが変わらないのが、これも1つの方法かなと思います。

その他、福里先生はどうでしょうか。

福里教育
委員

… 私の子供は垂水小学校と垂水中央中なので、そこが私にとっては基本なんですけど、教育委員をさせていただいて、最初小規模校を訪問して初めて複式を見たりとか、その小規模校の取組を見て、すごくいいなと思ったのが、やっぱり地域と一緒にいろんなことをしている、なんかこう、行事に向かって、それこそ柊原だったら「おろごめ」に向かって、穴を掘るのだって、皆1か月ぐらい前からですかね、下級生は石ころを拾って、地域の方は穴を掘ってとか、そういうのを一緒にやっているのがすごくいいなというふうに感じました。それからあと、ふるさと先生だったり、あとはその地域のメンバーの方が裁縫の得意な方がいて、学校で裁縫を教えてくださいとか、そういうのがすごくいいなというふうに思いました。

うちの子供は垂水に住んでいながら、垂水の良さってわかってるのかなっていうのはよく感じていて、だけどこの間、企画政策課の会議に出させてもらったときに、小学校6年生でしたっけ、うち6年生なんですけど、垂水のいいところをVTRにした、あれを見たときはすごくいいなという。それで、学校でもお長屋の話を聞いたりして、子供が垂水ってすごいんだねって、その時に初めて言って、私もその子供に垂水のこういうところがすごいんだよっていうのを教えていかなきゃって思って、実は私もわかってないんじゃないかなっていうふうに思って、子供にそういう機会が、小規模校は、結構そういう機会が多いんじゃないかなあって。

だから、柊原ばかり言うてはいけないんですけど、若い子が、柊原に帰って家を建てたりとか、そういう地域に帰ってくるというのがすごくいいなというふうに思います。

あとはメリットとしてはやっぱり小学校で、すごく自主的にいろいろなことを取り組めていたんですが、中学校にあがると、やっぱりその人間関係がうまくいかなくて、せっかくいいものを持ってるのに、不登校になってしまったりとか、やっぱり友達を作る過程というか、そういうのはうまくできないのか、そこがちょっとかわいそうというか、かわいそうと言ってはいけないけど、小学校のときみたいにうまくいくといいのになというふうに思うことはあります。

さっき市長が言われたように、給食を無料化にしてもらったり、医療機関の窓口負担なしだとかしてもらって、実際うちも恩恵を受けてるので、すごくありがたいです。

そして幼稚園でもそうなんですけど、今まではちょっとした風邪では病院に行かなかったんですけど、そういうのも病院に行くようになったりとか、そういうのも、実際本当にあります。

そして、給食を食べてきて、姉弟で、今日のあれ美味しかったねとか、よくそういうのがうちで話題になるんですけど、私は、献立表でしか見れないんですけど、最近はそのインスタがすごく話題になって、すごくいいなって思っっては見てますんで、ああいうのがどんどん広がるといいのかなというふうに思います。以上でございます。

尾脇市長 … はい。非常にありがたいなと思いながら聞いておりました。

いろんなことを常に全体の政策的にお話をするんですけど、情報発信、伝えるっていうこと、まあ特に教育委員会はできてると思いますけれども、やってないことをやったって言う必要はないですけど、やったことをしっかりと伝えるっていうのは、多くの皆さんにご理解いただくうえで大事だなと思います。

今ありました、南北 37 キロあって、9 つの小学校区あって、福里さんのところは垂小、中央中ということで、これが基本のラインになって、地域を歩くと、例えば柊原という話があって、それはそれでまたよさがあるなど、ただ、程度の問題があって、いま 30 人ぐらいなんです、非常に良いんですけど、これが 10 人とかなってくると、また複式といっても難しい問題があったりして、そういった意味では、いずれ中学校では 1 つになるんですけども、小学校のとき、地域との連携とか、いろんなイベントの参加とか、非常に私も外から見ていいなあと思うんですね。まあ結果、若い人たちがですね、嫁さんが旦那さんを連れて帰ってくるということがあって、それで、子供が増えているみたいなのところがありまして、そういうような地域が増えていくといいなっていうふうに感じるところでございました。

では、田之上さん、いかがでしょうか。

田之上教育 … 私、小規模校のいろんなメリット・デメリットを感じているところ委員 ですが、それで、故郷のいいところを子供たちには知って欲しい。また、それを発信して伝えて欲しいっていうのがあるんですけども、地域地域の小学校区でいろんなことをしている。それをやっぱり、市内全体の、大人も子供も含めて知っていくと何かいいのかなって。

今人口が少なくなっている中で、子供たちが、例えば、ちょっとうまく言えないんですけども、自分の地域の伝統や行事を発信することで、他の学校の子供たちも、どこどこ地区にはこんなものがあるんだ、とかですね、その地区だけのものじゃなくて、垂水市のものなんだよっていうことを、例えば小学校同士で発信し合って、紹介し合って、皆が自分たち、垂水市のものとして学んでいくのも 1 つの方法なのかなって、今考えているところです。

学校訪問をさせていただく中で、私は学校に行くっていうのはすごく楽しみなんですけれども、小さい学校に、垂水小学校でもそうなんですけれども、行くと、「こんにちは」とか「おはようございます」という元気な挨拶をしてくれて、授業中緊張しているんだろうなと思いつつも、近くに行ってみせていただいたり、ちょっと話し掛け

たりすると答えてくれたりする。そういう、何ていうんだろう、コミュニケーションというか、その小さい学校では人と人との関りをもつということになるのかなあと。子供たちには申し訳ないけれども、そういうのもあっていいのかなあと感じているところです。

学校の在り方っていうのはこれからどうしても考えていかないといけないものだと思うし、どうしても、地域と学校というのはもう切り離しては考えられない状態であるので、本当にいろんな意見をどんどん出し切って、これからいつて欲しいなっていうふうに思っております。

尾脇市長 …… ありがとうございます。

では、明石委員お願いします。

明石教育委員 …… はい。私の方からは経験から少しお話をさせていただければと思いますが、1年間だけ私、若い頃、生徒8人という担任を、中学校ですけど、全校生徒も32人でした。

本当に一人一人と話ができる、声掛けできる、いろいろ学習面はわかるし、一人一人のいろんな提出するものも、細かくチェックができるし、本当に子どもとの距離も近いし、小規模校メリットっていうのはこういうところなんだろうなと、教員にとってはですね。

そう思いながら、1年間だけでしたけど担任をしました。不登校だった生徒、8年のうち1人は学校に4月から来てなかったんですけど、9月から自力で来るようになりまして、いろんなことをしながら、外の風に当てながら、子供たちとの距離を縮めながらといった経験があって、小規模校の良さというを感じたところです。

そして、垂水中央中学校に勤務してるときに、野球部が非常に活躍いたしまして、県で2度、優勝したりと。ただその、優勝しなくてもですね、子供たちが挨拶をきちんとしながら、一生懸命、勝とうが負けようが白球を追っている姿を本当に自分を幸せな気持ちにしてくれて、もう忘れられない4年間を過ごさせていただきました。

特にある生徒、野球の生徒でしたけど、3年生の卒業前、校長室の掃除当番でしたその子は、半年間。その子が、3年の本当終わりぐらいのときに、私の顔を見て「校長先生、僕、中学校が1つになって本当によかったです。」と、言いました。垂水小からきた子供ではないんですけど、そこで一緒に野球、思いっきりプレーができたことがうれしかったっていうのは、わざわざ私に伝えに来たので、心の底から出た言葉なんだろうと、いうふうに思いました。

規模が大きいと、チャレンジする選択肢とか、自分の可能性を伸ばす選択肢がやっぱり増えるかなというのはやっぱり感じると思います。

小学校でも、例えば卓球がしたいとか他のスポーツをしたいってなったときに、それらが十分できる環境っていうのを整えてあげることが大事なのかなっていうのは、そんなところからも感じたりはすると

ころです。体育の時間に思いっきりサッカーができる、ドッジボールで思いっきり投げられる、音楽の時間にパートにわかれて合唱の練習ができる、それは小規模校も工夫して、されてらっしゃるのはよくわかってるんですよ。そういうことが十分できる環境というのが大事なのかなと。

学校というのは、第一義的には子供のためにあるものであって、子供が集団生活の中で自分がどう生きていくかということを考えれば、子供たち或いは保護者の方々の意見を十分聞きながら進めていく必要があるのかなと思うんです。長くなりました、すみません。

尾脇市長 … ありがとうございます。非常に良いお話を聞くことができました。

では、また、私の方からお話さしていただいて、その後、教育長にお願いしたいと思います。

私は、平成 23 年 1 月 27 日に、垂水市長に就任させていただきましたが、その年の 3 月 11 日に東日本大震災がありました。ちょうど垂水中央中に一つにして、拠点として、大規模改修という戦略で、その初年度か 2 年目という時期だったと思いますけれど、文科省の通達でそのときの教育長に、全国一律 2000 か所、中止ということがあったように記憶しております。ただその時に、報告があったので、当時の教育長としては文科省の通達なので、当時 2 億 4000 万円の改修ってことでしたけれども、無理ですと。まあ 1 期がないと 2 期 3 期がないわけですね。なのであきらめましょうかみたいな話があったんですが、ちょうど地元の森山先生にもご相談して、そういうことなら上京しなさいということで、文科省の担当課長さんに直接会ってお話をする機会を作っていただきました。実はこういうことで困ると、今仮設なんだけれども、安心安全のためにやるわけだから、むしろそれはしっかりとやるべきだという話をさしていただきましたら、森山先生からも聞いています、わかりました、と言って、その場で 2 億 4000 万復活するとお伝えいただきました。他のところはなかなか厳しかったんですけれども、やっぱり足を運んでいろいろやっていくのは大事なことだなあと。それから 3 期の校庭の排水対策とかですね、いろいろ調整していただいて、結果中央中の恵まれた環境ができて、その辺りも一生懸命頑張っていて、すごいよかったなというふうに思います。

これも議論のときに、4 つあったものをどうするかと、喧々諤々ありましたが、結果として、やってよかったというふうに私も思っていますし、同様に小学校、今後どうするかということがありますし、議論の中で 2 つありまして、教育的な観点と、地域をどうするかというのと 2 つあるんですね。当事者、或いは保護者の皆さんは、やっぱり教育的な視点から、生徒がいいように環境を作っていただきたいということもありますし、一方で、地域の皆さんは運動会とか、地域の行事の拠点として、どうあるべきか、という意見のように一般的に分かれます。どちらも重要な視点ではあると思いますけれども、最終的

には、子供たちのためにどうするか、これは一番、どっちがいいのかって話ですよ。地域の拠点、いろいろありますが、その時にあるものを工夫をしていくことが大事なんだと思います。

その事を在り方という形でこれから協議をしていってみんながですね、どのように決まるにしても、議論を重ねて、理解の上で進んでいくってことが大事なんだと思います。全体的に、なぜこう議論があるかっていうのは、人口減少社会ということですから、これは、垂水市だけじゃないですね、日本という国が人口減少していったって、将来8000万人ぐらいなるだろうということ、ただもういかんともしがたい。2040年までにですけど、鹿児島県下で30万の人がいなくなると。鹿児島市長の下鶴さん語ると、48万人になるってことで、鹿児島市でさえそうなんですよね。

今は19市の中で、隣接する姶良市がベッドタウンということで人口増となっていますけれども、これもいずれは減っていくのかなと。例えば、垂水市だけが減って霧島市、鹿児島、鹿屋が増えてるということであれば、政策的な対策が可能ですけども、全部減っていきますから、なかなかやっぱりそこはしっかりと違う視点で考えなきゃいかんだろうというふうに思っています。

政策的には先ほど言った、子育てや教育の充実ってのは、他よりも優れていると思います。なので、市として打てる手は打っているんですが、減っている。だからいいかという話ではないんですけども、当面の対症療法としては、人口が減っていくことによって、いろんな意味でパイの縮小ですよ。ラーメン屋さんだったら100杯、今まで来てくれていた方が半分になって報酬は半分みたいな話ですから、カバーするものとして、交流人口とか、関係人口という形で対症療法としてはやっていて、そのために道の駅とかやっているわけですけども、根本的にそれはまた定住人口とは違いますが、なかなかそう簡単じゃないということからスタートしていかなきゃいけないというふうに思っています。

先週、先々週ぐらいでしたかね、総務省の講演がありまして、全国の市長会の理事会の皆さんが集まりました。原審議官といって、次の事務次官、森山先生と大変親しい方です。その方が今後の在り方というふうにして、その人として、これまでは、例えば人口100万人を、維持する或いは緩やかに減らすってことの考え方のもとで政策打ったんですけども、言えば、もう減る前提で政策を打っていくような方向性でいきますというような話をされました。例えば本市におきましては、総合計画っていうのが10年間あって、1万8000っていうのを目標にしながらっていうことなんですけども、現実的にそれが可能かどうかっていうのは、やってる方もわかっています。難しい。なんだけども、そういう昔ながらの行政の基準があって、そういう数字を出さざるを得ない。現状は1万3000ですから、なかなかそういった

ものを考えたときに、現実的にやっぱ対応していかなくやいけないという話があるんですが、さっき言った、いろんな絡みとかいろんなものがありますから、すぐに方向転換ってのは難しいんですけども、しっかりとそのところ、本格的に検討しながら協議をして、ルールに従って、数字を当てはめるっていうことではなくて、人口減少の中での問題を解決するための政策っていうのを実現をしていかなくやいけませんので、いわゆる企業誘致とかいろんな話もあります。それはそれで1つの方法だと思いますけれども、例えば垂水の場合は灰が降りますから、鹿児島みたいな誘致なんかは難しいんですね。

なので、食の宝ですから、それに類する、例えば加工、例えばグローバル・オーシャン・ワークスさんとか、そういった形で、ある意味、政策的にはやっていて、政策のいろんな、人口減対策とか空き家対策の政策の数は増えています。例えば、この5年間で何百人来てますよと、そうですけど、その3倍ぐらい亡くなっているんですね、結果人口が減るっていう現象が起こっていますので、その辺のところは担当としても切ないところで、政策としては当たってるんだけども、結果として数字が減っているんで、その辺の事情がわからない人たちが、みんなじゃありませんけれども、どうするか、どうするんだみたいな話はされます。なので、それはそれぞれ御意見として受けるんですけど、先ほどみたいな、みんなで知恵を絞って、それぞれの専門で、答えってのはないんだけど、それぞれの立場から、こうしたらいいんですよとかそんなお話をしながらですね、持ち寄って、解決していくという仕組みを作るっていうことが大事ではないかなあというふうに思うところです。

だからちょっと、今この在り方で言うと、幼稚園保育園までは大人しいお子さんだったのが、小学校に上がってやっぱ、やんちゃじゃないけどちょっとなんか、っていう話をして、私も最初聞いたときに、例えば保護者あたりにも、いや子供だよって、先生指導できないのっていうと、パワハラだとか何とか子供たちが言うようなことで手をつけられないみたいな話も、あったりするんですね。だからある意味、専門家の先生方に聞くと、例えばそのショートラーニングな期間っていうか、つい卒園式まではいい子で、入学式になって悪くなるわけじゃないんですよ。ギャップ、人の問題とか先生とのコミュニケーションだったりすると、例えば、小学校に上がって、2週間ぐらい、元々の学校の先生が付いて見守っていくと上手く繋がっていった落ち着いた良い形でスタートできるのではないかと、いろいろあると思いますので、その辺のマルかバツかということではなくてよく、三角みたいな、ずっとその先生が見るわけじゃなくて、上手くバトンタッチしていけばいいっていうような方法とか、いろんなルールがあったり、すんなりできないこともあるんだけど、こうあったらいいよねっていう発想を持って提案をして、そこでやっぱとかいろいろ

なものがありますから、問題を解決していくような組織を作っていくのは大事なのかというふうに思うところでございます。

まあ、在り方というのはこれから減っていく方向ですから、増やしましょうって話じゃないんですけど、どういう方向がいいのかというのを、今後協議していく中で、近々そういうまとまったものが出るということで、今日はその前段としてのご意見をいただきました。

最後に教育長にお願いしたいと思います。

坂元教育長 … いま4人の教育委員さん方が、それぞれですね、やはり学校の在り方の検討委員会が必要であるという思いは一人一人話していただいて、そこに切り込む角度はいろいろありましたが、もっと言うと、本音を言うともっと言いたいことがあるんじゃないかと思いました。

では、何のためにじゃあ学校の在り方について話し合うのか、言うならば、どうあれば子供にとってよりよい教育環境を提供できるのか検討するため、ということにつきますよね。じゃあそのよりよい教育環境とは何ぞや、というところを、先ほどのああいった発言だったというふうに私は受け取っております。

これを、言葉をまた逆に変えてみると、結局何を言っているか、或いは私どもが何を目指しているか、魅力ある垂水の学校であれば、子供にとっても、保護者にとっても、安心である、それは言えるなと思ってます。ですので、一番は授業だろうと思うんですけど。そういう中で、やはり明石委員からもありましたように、切磋琢磨だとか、或いは社会性、そういったものも育まれていくのかなと思いますし、生徒指導が充実することによって、学校全体のまとまり、集団行動みたいなものも取得できているというふうに考えております。

ですので、皆様方の或いは市長のご発言の大事なものをしっかりとこの教育の場で受け継いでいくということではないかと思います。ちっちゃなことでは、挨拶がきちっとできる。これだけでも素晴らしいですね。これは一生ものだと思うんですね。あとコミュニケーションですね。本当に、昔は、良くも悪くも地域でそれぞれ、なんかすれば叱ってくれたり、或いはほめてくれたり、関わるおじちゃんおばちゃんがいたわけですね。ところが今はそういう世の中ではない。本市にはそういう面もまだ残っています。ですので今のうちだろうと思うんですね。そういう地域の教育力をうまく生かしながら、学校の在り方検討委員会でどうあるべきかっていうのもですね、考えていかなきゃいけないなというふうに思っているところです。

先ほど尾脇市長の方から2つありました、教育的な視点というところと、地域の視点ですね。そういった辺りも、やはり自分としては、最終的には上手く進めていかなければいけないというところですね。よりよい教育環境っていうのはどうあるべきかっていうのを考えていく場として、足りないところは補っていきながらですね、前へ進めていきたいなというふうに思っております。以上です。

尾脇市長 …… ありがとうございます。

ただいま、それぞれの御立場から様々なご意見いただきました。今後も皆様方からのご意見をいただきながら、全体的な方向性について検討して参りたいと思いますので、どうか、よろしくお願いいたします。

続きまして協議事項 3、その他に移りますが、事務局から何かございますでしょうか。

企画政策課 …… 事務局からは特にありません。

堀留課長

尾脇市長 …… はい。それではぜひ皆様方、全体を通して何かこれだけはっていうのがあれば、言っていただきたいと思います。いかがでしょうか。
(意見なし。)

よろしいでしょうか。

それでは随時ですね、いろんな形でご提案いただければありがたいと思います。

以上をもちまして、本日の協議事項は終了いたしましたので、事務局へお返しいたします。

企画政策課 今日、市長部局と教育委員会と合同での会議で、提案どおり教育堀留課長 大綱が決まりました。本当にありがとうございます。

また積極的なご意見、市長部局としても、参考にさせていただきたいと思います。

今後は、学校の在り方について、議論が始まると伺っておりますけれども、教育委員会としっかり連携していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。来年度以降、もしかしたら、この総合教育会議の開催が増えるかもしれませんので、その時はどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、貴重な御意見いただきました。本当にありがとうございます。

これをもちまして、令和 6 年度第 1 回総合教育会議を閉会いたします。